



子どもと歳をとった自分の親への働きかける愛情は、相手を素直に受け入れ・認め・
具体的なほめ上手・笑顔・手を握り肌と触れ合うぬくもり・ありがとうの言葉と
優しい態度があれば、幸せな時間を共に過ごし生きている喜び味わうことに結び付きます。

温かい愛の雰囲気の中で育った人と最後を送ることができる人は幸せといえます。
子どもも人生の最後を自分の家族と一緒に過ごそうとしている人も家庭に笑顔があり、あり
がとこの言葉が飛び交い、相手の言葉や態度を受け入れさらにほめ上手な家族の中で生活で
きている人は、幸せなひと時に結び付くことになり安心して最後を充実したことになります。

このような愛のある家庭の中の子どもは心が安定して人の話を聴く態度ができ、中学生に
なっても落ち着いて最後まで我慢して話が聴くことができ、さらにおおらかで人に好かれる
態度が身についている場合が見られます。

歳をとって何度も繰り返し言葉を言うようになった人、物忘れが激しくなった人、動くこと
が遅くなりやと動くことができる人、聴くことやしゃべること食べることが不自由になっ
た人、痛くてつらいときに温かい愛に包まれていると感じ生きていてよかったという思いに
浸れることで穏やかになると思います。しかし、文句やケチばかりが家庭の中にあれば反発・
反抗・ストレス・イライラ・暗い顔・悲しい表情に結びつきます。子どもはそのような愛の少
ない家にはいたくなく外ばかりに心を向けてしまいます。言ったことを否定され、やろうとし
ていることにケチ・文句を言われ、できた喜びを言うともっとできるでしょうと指摘される
ことで拒否的な愛情の反対と言われる無関心な雰囲気を味わってしまいます。歳をとった相
手に何度も聞いて嫌がられ、言うことをくどいと言われすぎると相手は話したくない、そばに
いないで遠くに行きたい、パニックが激しくなります。言っていることが聞えない、ごはんを
こぼしてダメ、自分で頑張っけて片づけて、早く服を着て、ごはん最後まで全部食べなさい。小
さなことに目くじらを立て、しつこくいわれすぎると余計に言わない・動きたくない・物に当
たり癩癩おこすといった行動に結び付く子どもも年老いた大人も見られます。子ども・そして
大人でも温かい愛のある雰囲気づくりとして、「カバンゆっくりかけていいよ」「ありがとう
とはっきり言えなくてわかるよ」「ボタン外すの一つずつゆっくりでいいよ」「ご飯も食べられ
るだけでいいよ、食べてよかったね」「靴履くの急がないで待っているよ」「スプーンで食べて
もおいしく食べられればいいよ」このように子どもと自分の年老いた親に温かい雰囲気で触
れ合うことで家族の中に生きていてよかった、子どもを授かった喜びを味わうことになりま
す。子どもと年老いた大人に対して、家族と一緒に生きている喜び、親子で楽しくもって生
きていたい意欲を育てることで家族の愛が深まり、充実した最後の生活にも結びつきます。

